

てまえ うれしのかよ
それさ、手前は嬉野通い

アリヤサ コリヤサ ヨイヤサ

い しらぐらふ
白鶴癒やす 白豆腐

令和五年一月十九日

大中臣正比呂



冬、山代温泉の道端には、ひび割れ防止の藁わらを巻かれた灯籠とうろうが並ぶ。その各々に
は、歌や絵がはめ込まれている。山代温泉は行基菩薩が、八咫鳥が川辺で傷を癒さかのぼ
やしているのを見て、湧き出でる温泉を発見したという。時代はそれより遡さかのぼるが、
神功皇后は外征の帰途に、肥前国の嬉野うれしの（地名の由来）に立ち寄り、白鶴が川辺で
傷を癒やしているのを見て、「あな、嬉しやの」と言つて、将兵の傷病を癒やす温泉を
発見したという。山代の八咫鳥は黒鳥、嬉野は白鳥。温泉差配の黒白を定めたか。
山代では白い玉子が温泉に浸され、嬉野では白い豆腐が温泉水で煮出される。
何れの温泉も、一昔までは、三味線が聞こえる歓楽温泉街であった。